

2010 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

阮 亦光

日本語能力試験実施委員会 担当理事

1. 2010 年度日本語能力試験について

2010 年は新しい日本語能力試験が発足する年である。新試験では一番目立つのが 26 年間実施していた 1 級、2 級、3 級および 4 級の 4 段階レベルから、N1、N2、N3、N4 及び N5 の 5 段階レベルに変わることである。実は、日本語能力試験公式ホームページ⁽¹⁾で公開しているように、新試験にはポイントが 4 つある。①コミュニケーション能力を重視した試験。②レベルは 5 段階、自分に合ったレベルが選べる。③尺度得点で日本語の能力を正確に測る。④日本語を使ってどんなことができるかがイメージしやすくなる。枚数の制限なので、これらのポイントの詳しい情報は日本語能力試験公式ホームページにご参照ください。

新日本語能力試験について、香港日本語教育研究会では 2010 年 1 月 30 日（土）独立行政法人国際交流基金日本語試験センター大澤公一研究員より日本語コースのある大学と日本語学校の代表を対象に説明会を開催した。また、4 月 10 日（土）独立行政法人国際交流基金派遣日本語教育専門家である木山登茂子先生とわたしで当研究会の会員を対象にそれぞれ日本語と広東語の説明会を開催した。また当研究会のホームページ⁽²⁾にある日本語能力試験に関するウェブページも新試験対応するように更新した。

2. 2010 年度の実施に関するデータ

次は 2010 年度日本語能力試験の実施に関する報告である。香港・マカオ日本語教育の現状に関心する方の参考になれば幸甚である。

2.1 応募手段

日本語能力試験申込の受付は第 1 回から日本語講座と第一日語暨文化学校に実施してもらっている。マカオ会場は 1999 年からマカオ大学のご協力で行われている。そして、2005 年に事務所の設立に伴い事務所でも申込を受けることになった。また、同年インターネット申込システムも立ち上げ、香港会場で試験を受ける場合はウェブによる申込も可能になった。表 1 は 2005 年ウェブ申込が始まってから 2010 年まで応募者の申込手段のデータである。ウェブを利用する応募者が年々増加になり、2010 年ではウェブでの申込が全体の 8 割以上に達したことがわかる。

¹ <http://www.jlpt.jp/>

² <http://www.japanese-edu.org.hk/>

表1 2005年～2010年 応募手段の推移（香港・マカオ）

年度	ウェブ申込 (香港会場のみ)		センター申込 (香港会場のみ)		応募者数		
	応募者数	比率 (%)	応募者数	比率 (%)	マカオ会場	香港会場	総人数
05年度	5,653	50.2	5,606	49.8	292	11,259	11,551
05年度	6,405	47.9	6,967	52.1	339	13,372	13,711
07年度	7,853	52.0	7,255	48.0	438	15,108	15,546
08年度	9,282	54.7	7,692	45.3	587	16,974	17,561
09年度第1回	2,575	67.5	1,238	32.5	0	3,813	3,813
09年度第2回	12,910	78.9	3,452	21.1	462	16,362	16,824
10年度第1回	2,836	82.0	623	18.0	0	3,459	3,459
10年度第2回	8,903	82.4	1,902	17.6	295	10,805	11,100

2.2 受験料の支払い

受付センターに現金を置くのが盗難を起こす危険性があること、処理の効率を向上すること、などの理由で第1回実施から応募者の受験料を小切手で支払うと指定されていた。小切手の使用率が低くなった現状などの原因で、2009年度12月試験の申込から電話やインターネットバンクなどで決済できるPPS（電子マネーの一種）システムを導入した。PPSの性質により利用できる対象がウェブ申込のみと限定されている。表2は2009年度と2010年度の支払い手段である。ウェブで申し込む人では高い比率でPPSを利用するし、利用率がだんだん高くなっていると観察される。

表2 2009年～2010年 ウェブ申込の支払い手段の推移（香港）

年度	ウェブ申込人数	PPSで支払う人数	比率 (%)	小切手で支払う人数	比率 (%)
09年度	12,910	10,458	81.0%	2,452	19.0%
10年度第1回	2,836	2,319	81.8%	517	18.2%
10年度第2回	8,903	7,502	84.3%	1,401	15.7%

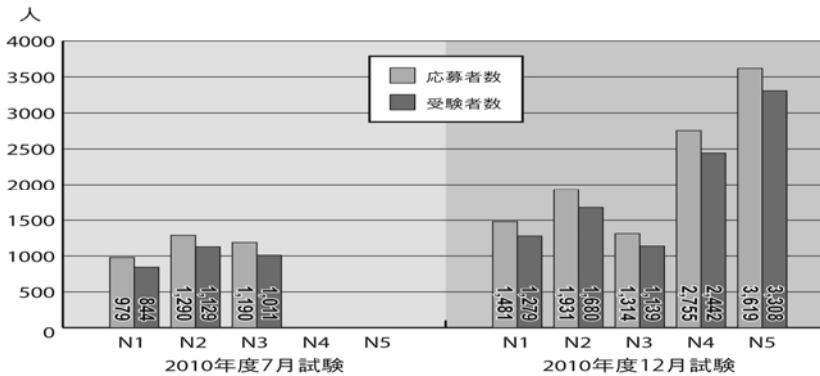
2.3 応募者数と受験者数

2010年度の応募者数と受験者数は表3の通りである。その次の図1はそれをグラフにしたものである。応募者数では表1でわかるように2009年度計20,637人から2010年度計14,559人になり、29.5%減少した。香港地区の実施では初めてこの程度の減少率が見られた。原因は日本語学習者数の減少と新試験への躊躇などが挙げられる。これからの応募者数の変更に注目したい。

表3 2010年度応募者数・受験者数と受験率（香港・マカオ）

	2010年7月試験			2010年12月試験		
	応募者数	受験者数	受験率(%)	応募者数	受験者数	受験率(%)
N1	979	844	86.2%	1,481	1,279	86.4%
N2	1,290	1,129	87.5%	1,931	1,680	87.0%
N3	1,190	1,011	85.0%	1,314	1,139	86.7%
N4	---	---	---	2,755	2,442	88.6%
N5	---	---	---	3,619	3,308	91.4%
合計	3,459	2,984	86.3%	11,100	9,848	88.7%

図1 2010年度応募者数と受験者数（香港・マカオ）



2.4 試験会場

2000年に引き続き、2010年7月試験は香港会場のみで、12月試験は香港とマカオの会場で行われた。

2010年度の試験会場が次のリスト（表4）である。九龍灣展貿中心は7月試験には夏イベントの予約がいっぱいで使えないが、2009年度のような大きなイベントがなかったので12月試験には全面的に使うことができた。尚、試験会場とその会場で行われる試験のレベルは応募者数により実施ごとに変更があるとのことをご了承ください。

表4 2010年度試験会場リスト（香港・マカオ）

	会場名	7月試験	12月試験
1	九龍灣展貿中心 G/F, HITEC Rotunda 1	×	○ (N1, N5)
2	九龍灣展貿中心 3/F, HITEC Rotunda 2	×	○ (N2, N4)
3	九龍灣展貿中心 6/F, HITEC Rotunda 3	×	○ (N5)
4	九龍灣展貿中心 7/F	×	○ (N5)
5	九龍灣展貿中心 Star Hall	×	○ (N1, N4)
6	黄棟珊記念中学	○ (N1, N3)	○ (N2, N5)
7	銘賢書院	○ (N2, N3)	○ (N3, N4)
8	香島中学	×	○ (N3, N5)
9	恵僑英文中学	○ (N2)	×
10	マカオ大学	×	○ (N1~N5)

3. 応募者に関するデータ

応募者の申込願書より次のような統計データが得られた。尚、申込願書の内容は独立行政法人国際交流基金の所定のもので、これから変更することがあることをご了承ください。

3.1 性別

応募者の性別は表5のようになっている。例年と大きく変わりがなく、男女の比率がほぼ3割対7割となっている。図2は2010年度全体の応募者性別の円グラフ表である。

表5 2010年度 応募者の性別（香港・マカオ）

	2010年7月試験				2010年12月試験			
	男性 (人)	比率	女性 (人)	比率	男性(人)	比率	女性 (人)	比率
N1	367	37.5%	612	62.5%	551	37.2%	930	62.8%
N2	429	33.3%	861	66.7%	605	31.3%	1,326	68.7%
N3	384	32.3%	806	67.7%	425	32.3%	889	67.7%
N4	---	---	---	---	806	29.3%	1,949	70.7%
N5	---	---	---	---	1,036	28.6%	2,583	71.4%
合計	1,180	34.1%	2,279	65.9%	3,423	30.8%	7,677	69.2%

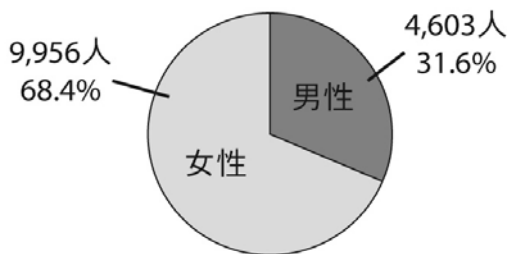
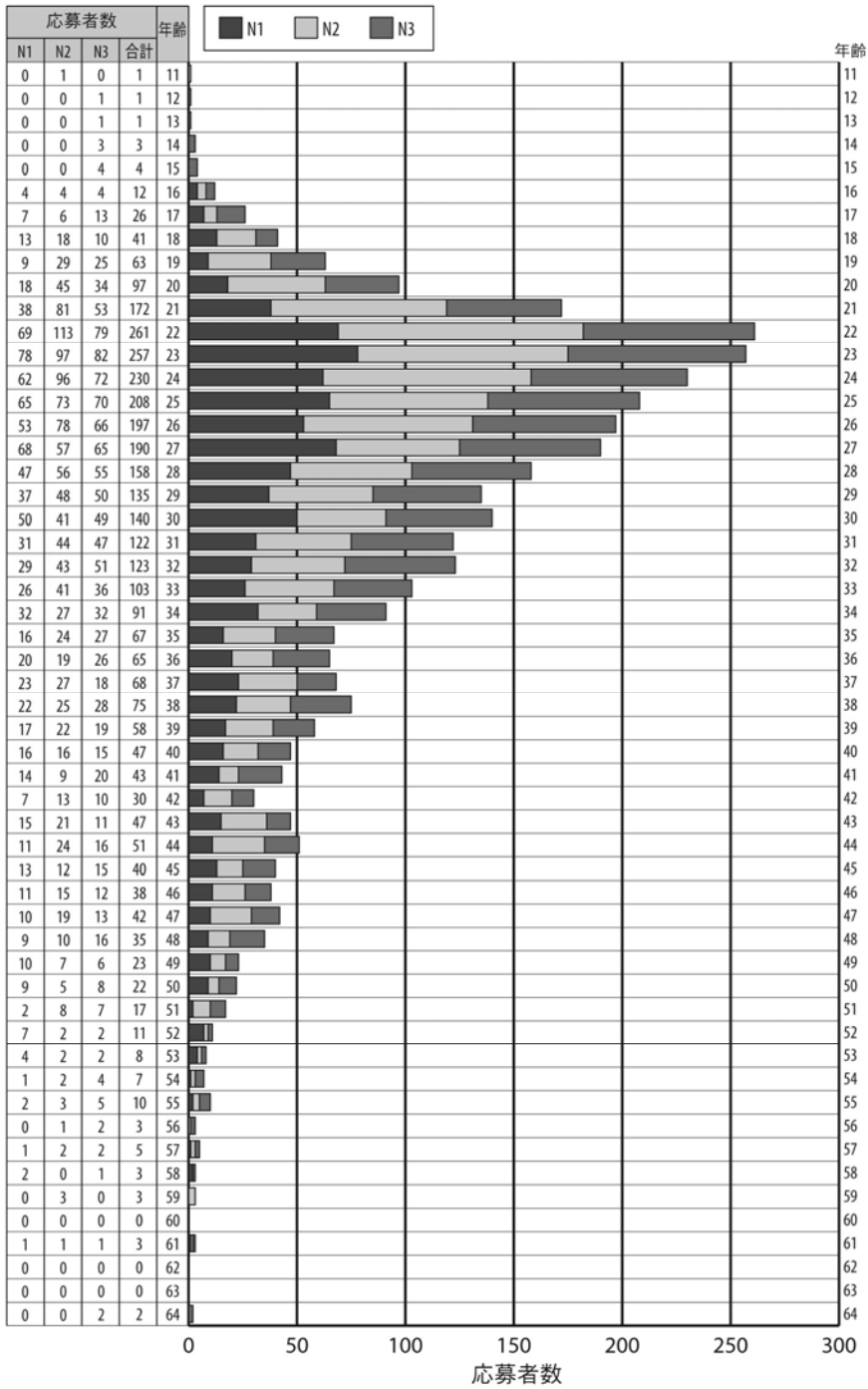


図2 2010年度 応募者の性別（香港・マカオ）

3.2 年齢

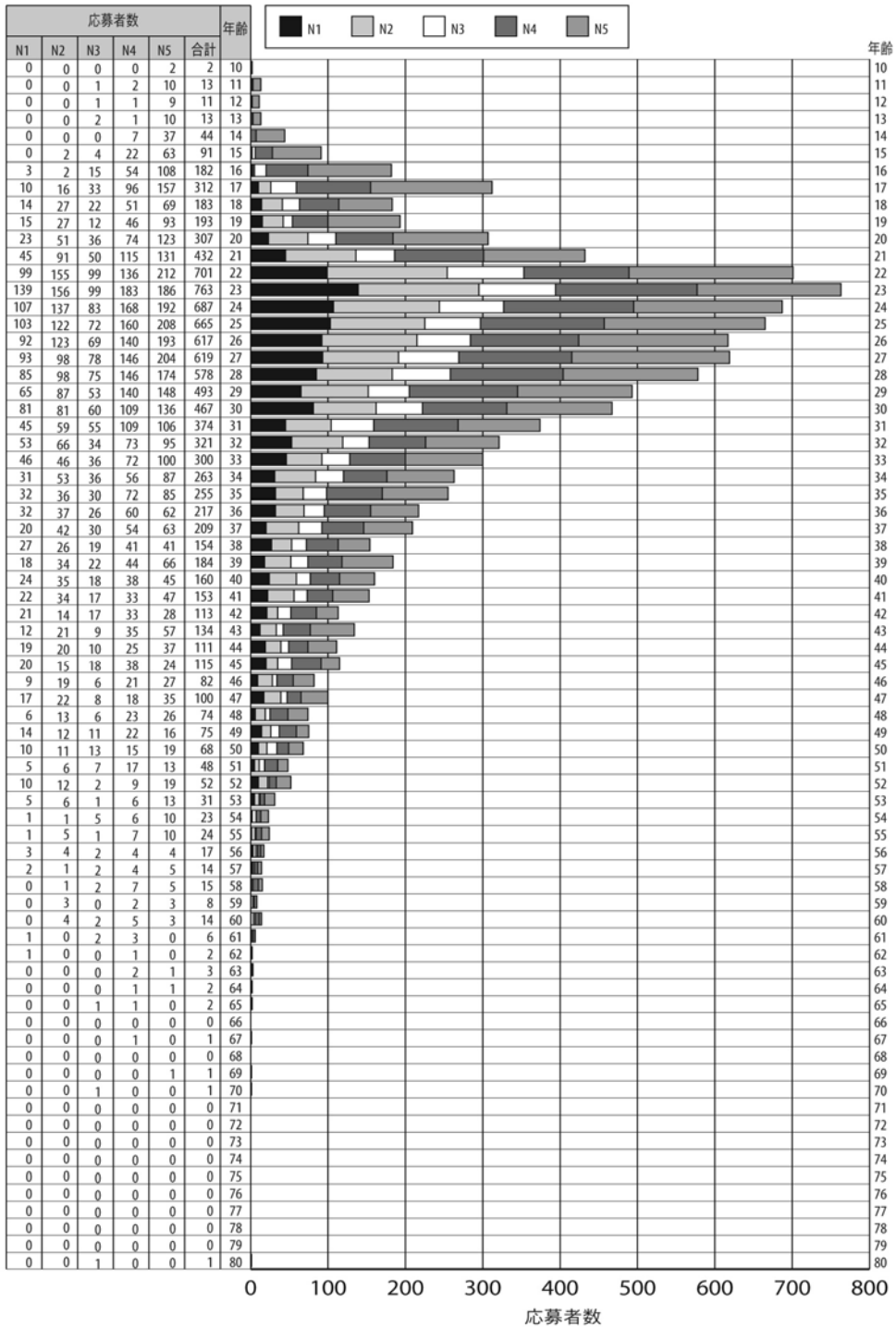
応募者の生年月日から年齢のデータができた。（図3と図4）2010年度の応募者では最年少者が10歳で、最年長者が80歳だった。また20代の応募者が一番多い。20代的人数が応募者数の半数以上占めている。7月試験では56.4%で、12月試験では54.3%だった。

図3 2010年7月試験 応募者の年齢分布図（香港）



2010 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

図 4 2010 年 12 月試験 応募者の年齢分布図 (香港・マカオ)



3.3 母語

応募者の母語について、表6と表7のようなデータとなっている。今年から香港、マカオ地区を含めた広東省出身の割合をより明確するように、中国語について広東語、北京語、それから他の方言と3つに細分することになった。中国語を母語する応募者が99%占めていて、広東語を母語する応募者は7月試験では95.5%、12月試験では96.5%占めている。

表6 2010年7月試験 応募者の母語（香港）

母語	合計	N1	N2	N3
中国語（広東語）	3,302	926	1,234	1,142
中国語（北京語）	108	35	39	34
中国語 （その他の方言）	12	4	5	3
英語	29	11	10	8
韓国・韓国語	3	3	0	0
ドイツ語	2	0	1	1
インドネシア語	1	0	1	0
フランス語	1	0	0	1
スペイン語	1	0	0	1
（合計）	3,459	979	1,290	1,190

表7 2010年12月試験 応募者の母語（香港・マカオ）

母語	合計	N1	N2	N3	N4	N4
中国語（広東語）	10,715	1,376	1,832	1,265	2,689	3,553
中国語（北京語）	259	73	73	32	41	40
中国語（その他の方言）	18	10	3	2	1	2
英語	74	17	15	11	13	18
日本語	8	2	2	0	3	1
韓国・韓国語	8	2	4	0	2	0
フランス語	5	0	0	2	1	2
ルーマニア語	3	0	0	0	3	0
ドイツ語	2	0	1	1	0	0
スペイン語	2	0	0	1	1	0
オランダ語	2	0	0	0	1	1
スウェーデン語	1	1	0	0	0	0
タイ語	1	0	1	0	0	0
マレー語	1	0	0	0	0	1
イタリア語	1	0	0	0	0	1
（合計）	11,100	1,481	1,931	1,314	2,755	3,619

3.4 日本語学習の場

アンケートの質問：

あなたに最も当てはまるものを一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	現在、小学校（初等教育）で日本語を学んでいる	0.2	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
2	現在、中学校・高校（中等教育）で日本語を学んでいる	0.4	0.7	0.5	0.1	1.0	0.6	0.6	0.5	0.6	1.9
3	現在、大学・大学院（高等教育）の主専攻で日本語を学んでいる	9.3	10.0	10.8	7.1	3.7	9.6	8.4	3.3	1.7	0.5
4	現在、大学・大学院（高等教育）の主専攻以外で日本語を学んでいる	6.0	5.4	6.0	6.6	5.7	5.1	7.2	7.7	6.1	4.1
5	現在、語学学校等のその他の教育機関で日本語を学んでいる	46.8	30.1	49.1	58.0	62.3	30.1	49.2	60.4	70.0	77.3
6	現在、1～5の教育機関で日本語を学んでいない	37.3	53.6	33.4	28.1	27.3	54.5	34.6	28.0	21.7	16.1

選択比率の中で一番高い比率をブラックフォントにすると、日本語学校に通っている応募者が一番多いと分かる。また、N1の応募者では半数以上一般の学校に通っていないこともわかった。

3.5 受験目的

アンケートの質問：

あなたが今回の試験を受ける目的を一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

	アンケートの選 択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	大学や大学院入 学に必要な (自分 の国で)	1.6	1.4	1.8	1.5	2.0	2.3	2.1	2.1	1.6	2.2
2	大学や大学院入 学に必要な (日本 で)	3.5	3.0	4.3	2.9	2.0	2.6	3.2	1.8	1.5	1.5
3	その他の教育機 関での入学や能 力証明に必要 (自分の国で)	2.0	1.5	2.4	1.8	2.2	1.1	2.2	1.9	2.4	2.6
4	その他の教育機 関での入学や能 力証明に必要 (日本で)	2.3	1.4	2.6	2.8	1.3	1.1	1.6	1.0	1.3	1.2
5	自分の仕事やこ れからの就職・ 昇給・昇進に役 立つ (自分の国 で)	22.0	22.7	24.2	19.2	17.8	26.2	22.7	18.1	15.2	13.6
6	自分の仕事やこ れからの就職・ 昇給・昇進に役 立つ (日本で)	2.0	2.9	2.0	1.3	1.2	1.8	1.9	1.4	0.9	0.8
7	上の1～6以外 で、自分の実力 が知りたい	55.0	56.4	51.9	57.3	57.5	55.4	53.6	61.3	60.5	56.7
8	その他	11.6	10.7	10.8	13.2	16.0	9.5	12.7	12.4	16.6	21.3

選択比率で一番高いのは自分の実力が知りたいとのことで応募者の半数以上占めている。その次は香港、マカオ地区での仕事に役立つとのことで、約2割ある。

3.6 職業

アンケートの質問：

あなたの職業について、一つ選んで、□に記入してください。

2010 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

アンケートの結果：

	アンケートの 選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	小学生 (初等教育)	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1	0.6
2	中学生・高校生 (中等教育)	4.7	4.5	4.2	5.4	9.6	3.4	4.2	7.6	10.4	15.2
3	大学・大学院生 (高等教育)	21.3	19.4	25.5	18.3	16.7	19.3	21.5	18.1	15.9	13.0
4	語学学校等のその他の教育機関の学生	4.9	3.7	6.1	4.5	3.0	3.2	3.7	2.9	2.3	3.2
5	就業 (会社員・公務員・教員・自営等)	58.8	59.4	55.0	62.4	62.1	62.9	60.7	63.7	64.0	60.7
6	その他	10.2	12.9	9.1	9.2	8.2	11.1	9.5	7.5	7.3	7.3

6割ぐらいの応募者が就職しているとわかった。その次、2割ぐらいは大学生と大学院生である。

3.7 業種内容

アンケートの質問：

3.7は、3.6で5を選んだ人に聞きます。

あなたに最も当てはまるものを一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	教育機関の日本語教員として仕事で日本語を使っている	1.1	2.6	0.3	0.7	0.6	3.2	0.4	0.1	0.3	0.1
2	公的機関に勤務して仕事で日本語を使っている	0.5	0.3	0.4	0.7	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
3	製造業、建設業、情報通信業などの企業に勤務して仕事で日本語を使っている	10.4	13.4	11.0	7.5	7.9	15.3	8.6	7.3	6.5	5.7
4	サービス業、観光業、接客業などの仕事で日本語を使っている	9.4	13.2	9.3	6.5	12.7	15.7	11.8	12.3	12.0	12.7
5	1～4以外の職業で仕事で日本語を使っている	9.4	13.2	9.0	6.7	8.1	13.4	8.1	9.7	7.0	6.2
6	仕事で日本語は使わない	69.2	57.2	70.0	77.9	70.2	52.0	70.6	70.1	73.6	74.9

全体では約7割の応募者が仕事では日本語は使わないとのがわかった。つまり平均では3割ぐらい仕事では日本語を使うことだが、N1の応募者のほうは4～5割ぐらい使うということもわかった。教育機関や公的機関で日本語を使う人数が少ない。それから特によく日本語を使う業種は見られない。

3.8 日本語との接触媒体（メディア）

アンケートの質問：

あなたは教室の外で何を通じて日本語を聞いたり読んだりしますか。当てはまるものを選んで、○で囲んでください。いくつ選んでもいいです。

アンケートの結果：

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	ニュース・ドキュメンタリー	28.5	37.9	27.3	22.2	19.6	36.4	27.2	19.2	15.3	12.1
2	ドラマ（アニメを除く）	78.1	75.6	79.8	78.2	77.2	74.1	80.3	79.8	78.9	74.6
3	アニメ	49.0	48.6	50.9	47.3	51.8	51.6	54.3	52.8	51.2	50.6
4	新聞・雑誌（漫画を除く）	47.6	51.6	46.6	45.3	42.3	50.6	49.6	43.4	40.5	35.9
5	本（教科書を除く）	36.7	48.6	34.0	29.8	28.2	48.3	37.3	29.1	22.8	18.8

2010 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
6	漫画	36.0	41.8	34.1	33.4	33.5	39.5	36.1	35.0	32.0	30.4
7	ウェブサイトの記事	56.0	60.4	56.4	52.1	50.9	61.0	58.6	53.9	49.9	42.4
8	その他	18.6	22.5	17.4	16.8	18.3	21.7	18.6	17.7	17.0	17.9
9	教室外で日本語メディアにふれて、聞いたり読(よ)んだりしない	4.2	3.8	3.9	5.0	4.6	2.8	4.3	3.8	4.6	5.6

一番たくさん接触しているメディアはドラマで、8割近くになっている。その次はウェブサイトの記事で、アニメは三番目になっている。なお、一人当て平均では3.3選択を選んだ。

3.9 日本語を使用する相手

アンケートの質問：

日常的に、誰に対してどんな日本語を使いますか。当てはまるものを選んで、○で囲んでください。いくつ選んでもいいです。

アンケートの結果：

3.9.1 先生

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	先生と話す	56.9	50.1	59.9	59.2	56.0	50.1	59.2	59.1	57.1	54.6
2	先生の話聞く	53.4	42.0	57.7	58.1	58.0	41.3	56.3	58.8	62.3	62.2
3	先生が書いたものを読む	27.3	24.0	28.2	29.1	27.3	22.9	29.8	27.0	27.2	28.0
4	先生に対して文章を書く	30.2	27.0	31.1	31.8	26.9	25.9	31.3	27.4	25.5	25.8
5	どれにも当てはまらない	33.0	42.7	29.7	28.5	28.6	43.1	29.8	27.5	24.9	25.2

3.9.2 友人

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	友人と話す	50.8	57.2	53.3	42.9	43.6	54.8	49.6	43.8	40.8	37.7
2	友人の話聞く	34.5	37.1	36.0	30.8	29.4	38.3	34.5	31.4	26.5	24.4
3	友人が書いたものを読む	19.7	25.1	18.4	16.6	15.4	24.3	19.1	18.1	13.2	10.6
4	友人に対して文章を書く	20.0	27.7	18.8	15.0	15.7	26.4	19.5	19.5	12.8	10.3
5	どれにも当てはまらない	38.8	33.2	37.1	45.3	46.2	34.3	39.2	44.6	49.1	53.1

3.9.3 家族

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	家族と話す	8.1	8.1	9.4	6.8	7.4	8.2	9.1	6.7	6.9	6.9
2	家族の話を聞く	4.9	5.0	5.3	4.4	3.8	4.3	5.1	3.9	3.2	3.3
3	家族が書いたものを読む	1.9	2.1	1.8	1.9	1.6	2.5	2.6	0.6	1.3	1.1
4	家族に対して文章を書く	2.3	2.8	2.4	1.7	1.8	2.1	2.5	1.4	1.6	1.6
5	どれにも当てはまらない	88.3	88.2	87.2	89.7	90.0	89.1	87.4	91.3	91.0	90.6

3.9.4 上司

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	上司と話す	15.0	24.0	13.2	9.5	10.0	25.5	12.4	8.8	5.9	5.8
2	上司の話を聞く	12.9	19.0	11.6	9.2	9.2	19.5	11.0	9.2	6.9	5.7
3	上司が書いたものを読む	8.0	13.6	6.7	4.9	5.2	14.9	6.8	4.6	2.6	2.5
4	上司に対して文章を書く	7.1	12.8	5.4	4.2	4.1	13.5	5.2	3.5	1.7	1.7
5	どれにも当てはまらない	80.1	70.8	81.9	85.7	85.8	70.1	82.6	87.1	89.7	90.5

3.9.5 同僚

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	同僚と話す	16.3	23.5	15.0	11.8	13.0	25.3	14.4	12.3	9.9	9.8
2	同僚の話を聞く	11.9	15.8	11.2	9.5	9.7	18.0	10.4	10.2	8.0	7.0
3	同僚が書いたものを読む	7.1	11.2	5.8	5.0	4.9	12.8	6.1	4.5	3.3	2.5
4	同僚に対して文章を書く	6.7	12.0	4.9	4.4	4.1	11.5	5.0	4.0	2.4	2.0
5	どれにも当てはまらない	79.0	72.0	80.2	83.4	83.2	70.6	80.9	83.7	86.4	86.8

3.9.6 顧客

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)				答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	顧客と話す	20.8	29.2	18.4	16.5	16.8	29.6	19.9	15.8	13.9	12.5
2	顧客の話を聞く	15.8	20.3	14.6	13.4	13.7	22.6	15.8	14.1	11.8	10.4
3	顧客が書いたものを読む	8.2	13.4	6.9	5.4	5.7	14.9	6.9	4.9	3.3	3.5
4	顧客に対して文章を書く	7.4	13.7	5.7	4.2	4.5	13.4	5.2	3.7	2.5	2.4
5	どれにも当てはまらない	74.1	66.7	76.0	78.2	78.6	65.5	74.6	79.8	81.7	83.2

以上の回答率によると、香港の応募者についておおよそ次のことをのぞくことができる：

- 1) 応募者の約7割が学校に通って日本語を勉強している(3.4より)。3.9.1によると、「先生と話す」と「先生の話聞く」とある応募者が5割ぐらいで、「先生が書いたものを読む」と「先生に対して文書を書く」とあるのは3割ぐらい。これは香港での日本語教育の一面を反映したかもしれない。
- 2) 友人に日本語を使用することのない人数が4割ぐらい(3.9.2より)で、つまり6割ぐらい友人に日本語を使用している。友人とは日本人のほかと一緒に日本語を勉強している同級生や先輩後輩なども考えられる。
- 3) 職場で日本語を使う人が2割ぐらい(3.9.4, 3.9.5と3.9.6より)

4. まとめ

2010年日本語能力試験の応募者では性別の割合が例年と同じぐらい。年齢では最年少者が10歳で、最年長者が80歳だった。20代の人数が応募者数の半数以上占めている。中国語を母語する応募者が99%占めている。応募者数は去年より29.5%減少した。原因は日本語学習者数の減少と新試験への躊躇などが挙げられる。

「申込手段」と「日本語との接触メディア」のデータからインターネットを利用する人口が高いとわかった。応募者の中、日本語学校つまり正規学校以外に通っている人が5割以上で、全体の6割ぐらい就職している。約7割の応募者が仕事では日本語を使わない。半数以上自分の実力が知りたいという目的で受験するらしい。8割近くドラマで日本語と接触している。

(English translation in pdf of this report could be downloaded from www.japanese-edu.org.hk. Stores under Publications / Nihongo Gakkan issue 14)